

久納会計 FAX ニュース



Kunoh Accounting Office
久納公認会計士事務所

2018年1月号 今年はどうなる

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。今回のテーマは例年通り、干支と過去の出来事から考える今年の方向性です。

今年の干支

今年の干支は戊戌（ぼじゅつ、つちのえ・いぬ）です。戌は十干の5番目で、大きな刃が付いた戈（ほこ）の象形です。戌は、これに草冠のついた茂と共通し、「茂る、繁茂する」という意味を持ちます。戌は植物が繁茂するように、物事が反映し、複雑化するに従い、無駄を省き、簡略化することに努めることを意味します。

また、戌は十二支の11番目です。この戌は、戌（つちのえ）に一が加わったもので、戌が茂るを意味するように、戌も同義となっています。ただ、それに一陽を示す一が付いています。戌は、枝葉末節が茂って、日当たり悪くなり、風通しも悪い状態を示します。ひいては過剰を意味し、枝葉が茂りすぎると木が傷みます。そこで庭師は思いきってこれを剪定し、日当たり・風通しを良くし、木を生かします。これはまだ木にそれだけの生氣（陽）が残っているからであり、中の「一」はその陽気を表しています。

今年は奇しくも「戌」と「戌」という、同じような意味を持つ十干・十二支が重なります。ということは、より強力にこれらの文字が暗示する方向に向かうことを意味していると考えられます。したがって、今年は現状の新旧交代・対立・混乱が拡大（繁茂）するものの、それが整理・単純化されていくことを意味すると推測されます。ただ、この整理がうまくいかないとさらに混乱を広げる可能性もあります。それは、「戌」は「滅（ほろぶ）」で草木が枯れる状態を表しているからです。

今年はどう変わる

中国の陰陽五行説では、十干は「木・火・土・金・水」の五行と陰陽の兄（え：陽）と弟（と：陰）によって成り立っています。この中で、今年の戌は「土（つち）の兄（え）」で「つちのえ」と読み、土の性質を持っています。また、戌もまた十二支の中で「土」の気をもっています。

五行という考え方では、「土」は「万物を育成し保護する性質」となっています。さらに、「四季の移り変わりの象徴」になります。五行はいろんなものに当てはめられてきましたが、その1つが季節で、木は春、火は夏、金は秋、水は冬です。そして、残った「土」はそれぞれの季節の変わり目を表すことになっており、ここから季節最後の約18日間を「土用」といいます。「土用の丑の日」が有名なため、土用は夏にしかないように思われがちですが、実際には季節の最後には皆「土用」が挟まっています。

今年、このような「変わり目」の性格を持つ「戌（つちのえ）」と「戌（いぬ）」が重なるという特徴を持っています。

それでは次に、同じ干支であった60年前と120年前の出来事を見ていきます。

60年前1958年（昭和33年の出来事）

昭和33年は現在の天皇陛下と美智子様の婚約が発表され、また、長嶋茂雄がデビューした年です。ソニーが社名を「東京通信工業」から変え、日清のチキンラーメンが発売、一万円札が発行された年でもあります。テレビの受信契約者が100万人を突破し、第3回アジア競技会が東京で開催され、有名な「岩戸景気」（1958年6月から1961年12月：42ヶ月）が始まりました。

ただ、災害も多かった年のようで、1月には「南海丸」が沈没、167名死亡、6月には阿蘇山が大爆発し12名死亡、9月には狩野川台風で死者・行方不明者1269名などが発生しています。

120年前1898年（明治31年）

世界的にはアメリカがスペインとの間で米西戦争を起こし、植民地を次々と奪った年です。中国では清の末期にあたり、「戊戌の政変」というクーデターも起こっています。

日本国内では民法の全編が施行され、女性が名字を持ち戸主になれるなど、ようやく女性の権利が認められるようになってきた時代です。政治的には自由党と進歩党が6月に合同するものの、10月には分裂するという、波乱の年で選挙も2回あり、内閣も2回替わりました。

今年の予想

今年は「変化の年」・「変わり目の年」になりそうです。昭和33年は長嶋茂雄という大スターが誕生し、インスタントラーメンの草分けであるチキンラーメンが発売されたり、岩戸景気が始まったりなど、良い方向への変化が起きています。

120年前は世界的には政変・戦争がありました。国内でも女性の権利について進歩があった年でもありますし、内閣が2回も替わっているなど、変化が大きい年といえます。

どの分野の誰、ということは出来ませんが、「盟主」の交代のようなことも起きるかもしれませんし、画期的な商品が発売されるかもしれません。

一方で、茂った木々が剪定され、整理されていくというイメージもありますので、現状「ごちゃごちゃ」しているものが整理されていく年でもありそうです。

言い方を変えれば、次の繁栄（繁茂）のためには剪定が必要だということもあります。剪定することとは木を切るということなので、繁栄のためには「切る」、つまりは「整理する」勇気が必要な年なのかもしれません。切らなければ、葉

が茂りすぎて枯れてしまう、つまり「滅亡」につながるかもしれません。

景気について

最近、周りで「景気がよい」と断言する人が増えてきました。物販・飲食など一般消費関連は、あまり良いように思えませんが、建設業・製造業では実際に受注残を多く抱えているところも見受けられます。特に関東地方の景気がいいようです。

なお、昨年の大和総研のチーフエコノミストの熊谷亮丸氏のセミナーでは、①日本経済には特に波乱要因は見当たらず、景気はこのまま緩やかに拡大、②アメリカはトランプ大統領の影響で混乱拡大、③中国は短期的には問題は表面化しないが、金融問題など潜在的には問題あり、④ヨーロッパはイギリスのEU離脱問題がさらに難航し、問題が大きくなる、という見立てでした。

当事務所の取り組み

これまで同様、お客様のご要望・困り事に応えるべく、お客様のお話をよく聞き、少しでも解決に向かうよう努力して参ります。最近はどのお客様も、「人が足りない」と言われていますので、お客様の手を省くための提案も進めていきたいと考えております。

また、テーマは未定ですが、6月にセミナーを開催したいと考えています。

AIの急速な進歩によって、予測不可能な時代になってきたと思います。その中でも、時代の変化を見ながら、皆様と共に乗り越えていきたいと考えておりますので、何とぞよろしく願いいたします。

(以上)

参考文献

安岡正篤著『干支の活学』（プレジデント社刊）

干支歳時記（越玄さんのホームページ）

村上瑞祥さんのホームページ

吉方位・吉日さんのホームページ

ウィキペディア、各種年表など